



ようこそ、
驚きの
介護民俗学へ

ぶっちゃけインタビュー
16
六車由実さん（むくるまゆみ）
介護民俗学提唱者
「デイサービスすまいるほーむ」管理者

里見喜久夫（コトノネ編集部）=インタビュー
Interview by Kikuo Saromi
岸本 剛=写真
photograph by Tsuyoshi Kishimoto



要介護の高齢者や
認知症の人が、昔のことを話す。
「へえ、いやあ…、みんなの驚く声。
話し手は、驚かれることに驚く。
ときにほほもゆるむ。
忘れてしまっていた昔が、
ズルズルと引き出され、驚きの渦が広がる。
ここは、沼津の高齢者のデイサービス。
六車由実さんが提唱し、
実践する「介護民俗学」の現場へ。

インタビューまで三時間ほどあった。ちようど、
昼からはじまった「すまいるかるた」づくりを見
学。今日のお題は、職員の渥美さんから、みんな
で思い出話を聞き出し、かるたの読み札にまと
める。

手はじめに、六車さんから渥美さんに質問。渥
美さんは体が大きい。スポーツは？ 小さいときは
バスケット。二〇代で、フルマラソン。それと、ロード
バイク。今年、結婚したばかり。そのきつかけ
は？ いつしか、聞き手が六車さんから利用者に代
わっている。やはり、ロードバイクの縁。静岡の出
身だが、沼津にきたのも、結婚がきっかけ。静岡
でも福祉施設で働いていた。どうして？ おじい
ちゃん子だったからかな。「年寄りが好きだっ
て、うれしいね」と、どこからか声がする。

おじいちゃんは、渥美さんが五歳のときに亡く
なったけど、よく覚えている。毎日、島田名

物の黒大奴（※1）をくれた。「それで、体も大
きければ横にも大きくなった」と、渥美さんは
笑いを誘う。おじいちゃんは建築家だった。静岡
駅前の東宝映画館を設計したこともある。いま
は？ もう建て替わった。趣味は彫刻。

一時間ほどかけて、六車さんが、みんなの意
見を聞きながら、すまいるかるたにまとめた。

「東宝映画館をつくった建築家のおじいちゃ
ん。黒大奴を毎日くれて、わたしを育ててくれ
た。お陰でわたしはすまいるほーむで丈夫で働い
ています」。

どう、大丈夫かな？ カズさん、どうでしょ
う？

カズさんは、「なんかちよつと…。五つで亡く
なつてから…。六車さん「ああ、飛躍し過ぎつ
てことですか？」。カズさん「なんか、その間には
しいよね、一つ入れたい」。カズさんは、いま九九
歳。するどい。

「じゃあ、間にフルマラソンを入れようか」の
声。いや、入れないでという声も上がり、四七作
目のすまいるかるたが誕生した。六車さんが発表
。「東宝映画館をつくった建築家のおじいちゃ
ん。黒大奴を毎日一個くられてわたしをかわい
がってくれた、お陰でわたしはすまいるほーむで
楽しく働いています」。パチパチパチパチ…。

一言も言わなかった人も、表情はほころんで
いた。